

# JAAC だより

## 就職活動最前線レポート（最終回）

— 最も重要なことは“就業力”を身に付けること —

本誌3月号から、私が公私に渡りお世話になっている恩師であるお二人の元大学教授（現非常勤講師）のT先生とO先生と一緒に、“就職氷河期”と言われる今年の就職状況を踏まえて、学生の就職活動のあり方などについてお話をしてみました。今号は“就職活動最前線レポート”の最終回として、『就職活動を行う学生に求められるものは何なのか』をテーマにして、お二人の先生のご意見をまとめてみました。

大学を卒業後、就職ができなかった人や、就職をしなかった人たちのことを“大卒未就業者”ということばで表しています。日常的に使われることばではありませんが、就職難と言われる今日、良くメディアや紙面上で見聞きすることばとなりました。世間一般的には就職に有利だと言われている大学や学部在籍している学生でありながら、何故、卒業前に就職の内定を得ることができなかったのか。また、日本の普通の学生よりもはるかに高度な英語力と異文化対応能力を身に付けているはずの留学生が、何故、就職活動で思いのほか苦戦するのか。『結局のところ、最近の傾向として、多くの若者達に欠けているのは“就業力”ではないだろうか』と、T先生は仰います。では、“就業力”とは何を意味するものなのでしょう。

“就業力”とは、そのままのことばの意味から『仕事に就くことができる力（能力）』と言うことです。このことばの意味を学生の立場に置いて表すとすれば、『仕事に就くための準備ができていること』と言えらると思います。ことばの終わりに『力』という字を当てて、“・・・力”と表すことばが世間では独り歩きしているような気もしますね。以前、本誌でも回を重ねて取り上げた“人間力”や“表現力”ということばもこの類ですが、“就業力”の中にはこれら“人間力”や“表現力”ということばも含まれていると思います。『しかし、学生にとっての“就業力”とは、実はもっと根本的なところにあるもので、それは“仕事に対する自分なりのビジョン”とも言えるものではないでしょうか』と、O先生は考えています。さらに、『卒業前に就職の内定を取り付けることができなかった学生の中には、自分が将来就こうとする職業や職種を明確にすることができていなかった者たちが多くという点に着目する必要があると思います』と、O先生は仰っています。つまり、自分が何をしたいのか（どのような仕事に従事するのか）を明確に決めることができないまま、就職活動に臨んでいたのではないのでしょうか。ほとんどの学生が就職活動をするとき、“どの会社に就職しようか”ということを考えてますが、それは、自分が“どのような仕事に従事しようか”ということとは全く異なるものなのです。残念なことに、多くの学生たちはその点を誤解しているように思います。

各大学では、学生に対する就職ガイダンスの一環として様々なセミナーや講習会を行っています。しかし、それらの講習会でられる事の内容が、就職をするための、または就職活動をする上での“How to・・・(ハウツー)”ものになってしまっている傾向があるとも言われています。確かに、企業訪問をする企業の選び方や、エントリーシートの記入の仕方、そして、就職試験の面接等への臨み方などを学ぶことは重要なことですが、それ以前に、学生が自分の仕事に対するビジョンと社会人になるための意識を持っている人間に成長しているか、ということが最も重要なことではないのでしょうか。その意識を学生に持ってもらうような人間教育を大学で行うことが大切だと考えられています。実は、こうした取り組みは以前から各大学で行われており、今年のような就職難の年に直面し、各大学では教育的な観点からも様々な方策を講じています。但し、学生に対するこのような方策が過度になり、大学本来の第一義的な目的である教育と研究に支障をきたさないように努めることは勿論のことです。『確かに大学は学生が社会に出る前の通過点の一つではありますが、大学が就職をするための予備校になってはいけません』と、T先生とO先生のお二人が声をそろえて主張されています。

では、具体的に学生が“就業力”を身につけるにはどのようにしたら良いのでしょうか。まず基本的なことですが、学生はこの社会に存在する多くの職業を知ることだと思えます。そして、それらの中から自分に合った、また、自分がなりたいと思う職業を探し当てるのが先決だと思います。それらの職業には自分が憧れの念を持つ職業や、自分の夢でもある職業があるのではないのでしょうか。より複雑化していく社会の中で、職業や職種はより専門性を持ち、細分化されてきています。今、多くの学生に求められているのは、大学の1・2年生の時の一般教養を学ぶ時期に社会との接点を自分なりに見つけて、広く社会の中にある様々な職業を認識することではないのでしょうか。『自分がなりたいと思う職業を見つけるのに一番良い方法は、その職業で働

く人の姿を実際に見てみるということですね。なかなかそのような機会を得ることは容易ではないと思いますが、学生諸君には是非そのような試みをしてもらいたいですね』と、O先生からのご助言がありました。このような機会は、企業訪問の際にその会社に就職している皆さんの先輩とお会いして、直接お話を伺うことでも得られますね。それと同時に、学生の皆さんが社会のしくみを理解し、多くの様々な職業に就いて働く人たちによって我々の社会生活が成り立っていることを併せて理解することが大事なことだと思います。

『私は前にも言いましたが、“就業力”とは「仕事に就くことができる力（能力）、すなわち、仕事に就くための準備ができてること」だと思っています』と、O先生は繰り返して仰っています。分かりやすく言えば、就職活動を始めるまでに学生の皆さんが“社会人となるための社会性を身に付けているかどうか”という点が鍵になるのではないのでしょうか。『私も同感です。この場合の「社会性を身に付ける」とは、知識だけの社会一般常識を得るということではなく、平たく言えば、物事の善悪や他人との口のききかた、ことばの選び方、細かな所作や立ち振る舞いといった、いわゆる世間や社会で常識として通用している事柄をどれだけ理解し、それらをごく自然なものとしてどれだけ自分の身に付けているかということだと思います』と、T先生がつけ加えられました。例えば、ある企業の就職面接を受けている時も、話す相手は学生ではありません。歳の差から言えば、親子ほども離れている相手と話をするわけですから、話し方にも注意を払わなくてはなりません。そういったTPOに合わせて、上手く相手と話し、関わる術を身に付けておくことが必要ですね。それは、社会で他の人々と上手に関わりを持つ上での最も基本的なことではないのでしょうか。『私は、“就業力”というのとは特定の仕事をこなす上での技術やスキルを言うのではなく、もっと人間性を重視したものだと思っています』と、T先生は提言し、お話を締めくくられました。

いかがだったでしょうか、皆さん。本誌の3月号より4ヶ月に渡って実際の就職活動において考えるべき点をお話してまいりました。皆さんにおかれましては、多くのことを学び、また、共感を得られたことと思います。多くの大卒未就業者を抱える現代社会ではありますが、微力ながら皆さんの就職活動においてお役に立てればと願っております。

また、この場をお借りして、貴重なお話を長時間に渡りお聞かせいただいたお二人の先生方に心よりお礼を申し上げたいと思います。(完)

(カリフォルニア事務局： 照井 紀久夫)

## カリフォルニア通信

(カリフォルニア担当：新井 康平)

【本格的な夏の到来を待つ南カリフォルニア】いや〜、暑くなってきました、というか、暑い日がだんだん多くなってきました。時折、肌を刺すような暑さを感じさせる太陽の日差しの強さ、その日差しの光度が創る独特の日中の明るさ、それらは確実に近づいてくる南カリフォルニアの夏の到来を物語っています。今年の3月末にUC Iにきた語学留学生たちの多くは、短期間のうちに急激に変わる天候の変化に驚いているようです。でも、口ぐちに『カリフォルニアの太陽・・・って感じがするね』、と言う彼らの顔は笑顔に包まれています。地中海性気候を持つ南カリフォルニアは、昼間は暑く、朝晩は冷える独特の気候ですから、季節の変わり目である現在、くれぐれも風邪などをひかないように体調の管理に努めていただきたいと思っています。UC Iのキャンパスを忙しそうに行き来する学生たちの服装も大分変わってきました。場所がら、普段から比較的薄着で過ごすUC Iの学生たちではありますが、ここに来て一段と薄着になってきたように見受けられます。普段、女子学生の多くはサンダルを履き、靴を履く時はそれなりの必要がある時です。これからさらにT-シャツと短パン姿で動き回る男子学生の姿も多く見かけるようになるでしょう。ここアーバインと近郊の街並みは景観も良く整備されていて、時々目にするオープン・カーはこの街並みに良くマッチしています。私個人的には、時々、海を眺めに行くのが好きですが、カリフォルニアの夏と海とは、切っても切り離せないような気がします。皆さんもお時間があれば、どうぞアーバインに遊びに来てください。お待ちしております。

## ミズーリ通信

(ミズーリ担当：ライマン・ピットマン)

【ジェネレーションギャップを感じる今日このごろ】私が若いころは“ジェネレーションギャップ”という言葉は若者と親の年代の人達との間にあるもので、当時の私自身にはあまりピンときていませんでした。でも、ここ数年その意味を感じる時がたまあるのです。それはたとえば、学生が到着するとすぐにインターネットの接続環境を気にするというのもその一例です。私もインターネットは便利だと思いますし、公私共になくてはならないものだと思っていますが、もし、数日間それが使えないとしても、それはそれなりに過ごせてあまり大きな問題とは感じません。でも、新入生にとっては到着した当日からインターネット環境が整っていないというのは、とても大きな関心事なんですね。各自のインターネット設定が整うまでの3〜4日間、学生たちがどのような気持ちでいるかを大学関係者に言うと、『若い者は我慢を知らない』という言葉が返ってきます。このことこそがジェネレーションギャップの典型的なもので、若者たちにとっては、『僕たちがどう思っているかは年寄りにはわからない』と言わしめる要因となるのです。この場合、どちらが正しいのでしょうか。少なくとも両者は真実を述べていますね。中高年の者たちは、長年インターネットが存在しなかった時代を知っていますが、現代の若者たちにとっては既にインターネットが存在している時代に生まれてきたのですから、他人が持っているインターネット環境が何故自分にはないのか、という観点から物事を考えているのです。これは、世の中の移り変わりがあまりにも速すぎて、人々の考えや気持ちにそれが追いついていかないのではないのでしょうか。

## Siesta ちょっと、一休みしませんか・・・?

～ 楽しい英語の学び方 ～

先月号で、英単語の成り立ちをその語源を辿って見てみると、意外な発見があり楽しいものですよ、とお話しましたね。実はその後で、私の近所に住む年配者の方から、『どうしたら英語を覚えられるか、その勉強の仕方を教えてほしい』というご相談を受けました。私は近くのファミレスにその方を誘い、コーヒーを何杯も飲みながら英語の語源についての話や、中学校レベルの英語の基礎をしっかりと勉強することの大切さをお話しました。思いのほか、私の話に耳を傾けてくれて、お陰様で私も久しぶりに嬉しさと楽しさの両方を感じる一時を過ごすことができました。年配の方々にとっては、英語の勉強となるとつい気構えてしまうものようです。確かに、ネイティブと同じように発音することは容易ではありませんが、海外旅行に行った際に、少しでも相手の言っていることが分かったり、自分の言ったことが相手に通じた時の喜びは何とも言えないはずですよ。そして、その繰り返しが自分の自信にもつながってくるものですよ。コーヒーをご馳走になって気をよくした私は、そのお礼に私が書いた旅行英会話の本をその方に一冊進呈しちゃいました。(苦笑)

## Help Line

FAQ

「夏学期に取る科目を日本でもできるのですか？」

**A:** それは On line (オンライン) 授業のことを仰っているのだと思います。夏学期に取る予定の科目の中で On line で履修する科目があれば、それらの科目を登録して帰省中に日本の自宅にいながら学習することができます。それらの科目を履修する際には、必ずスクーリング (大学の教室に行く) が無いことを再確認してくださいね。近年、このような On line 授業が一般化してきています。学生によっては、普段から教室に行く必要がない On line 授業を多く取り、自分の時間を有効に使っている人たちもいます。On line 授業の特徴は、教室での授業はありませんが、限られた期限の中で提出するレポート作成や、その勉強に必要なと思われる書籍類や資料などを自分で探して読まなくてはならないことなど、慣れないと戸惑うことがあります。初めて On line 授業を取る際には、経験者の学生からお話を聞いたり、また、大学のカウンセラーや JAAC のカウンセラーに予め相談をした上で決めてください。

**【編集後記】** ●アイスランドの火山噴火の影響は未だに続いている。その影響は定期航空便だけに留まらず、何年か先の農作物の収穫にも影響がでる可能性があると言う▼今月1日から中国の上海で万博が開催された。世界最大規模の万国博覧会だと言う。開催日初日から来場客の混乱もあり、また、開催日に準備が間に合わない国のパビリオンもあるそうだ■日本の政治はこれからどうなるのだろうか。鳩山政権の支持率も20%そこそこまで落ちた。今では旧政権の自民党への支持率の方が高いと言う。強いリーダーが日本には必要だよ▲相変わらずリクルートスーツに身を包んだ大学生を町で多く見かける。来年は今年よりも更に厳しい就職状況となるらしい。就職活動中の学生諸君、頑張れ!! ★日本の新幹線が将来ベトナムを走る事が決まった。日本の高度な技術は健在だ。オバマ大統領は米国の高速鉄道網の整備を打ち出した。ここでも頑張れ、ニッポン。(照井)

## Let me remind you . . .

★JAAC 生の皆さん、保護者の皆さん、何でもお気軽にご相談ください

▲新型インフルエンザ (インフルエンザ A (H1N1)) における注意喚起の継続：厚生労働省は、今般の新型インフルエンザの流行は一応沈静化したとの見方を発表いたしました。世界的に沈静化への傾向を辿っていますが、留学生の皆さんには引き続き注意をしていただくようお願いいたします。

★米国各地で開催されるジョブフェアやキャリアフォーラムへの参加：2011年・2012年卒業予定の皆さんにおかれましては、日本や米国各地で開催されるジョブフェアやキャリアフォーラム、海外大生を対象とした就職説明会などに積極的の参加されることをお勧めいたします。インターネット等でこれらのフェア開催日程を調べ、前もって皆さん各自のスケジュール調整を行い、多くの企業担当者やフェア開催団体のカウンセラーとの面談に努めてください。

※今年のキャリアフォーラムの予定は、<http://bostoncareerforum.usautstudy.com/800/post-86.html> を参照してください。

■今年の夏に帰省する学生の皆さんへ：帰省に際しての準備を早めに進めましょう。航空券の手配、アメリカ再入国の際に必要な入学許可証 (I-20) の取得などと言った時間のかかる手続きは早めに始めてください。

▼帰省中に留学ビザ (F-1) やパスポートの更新手続きをされる方へ：留学ビザの更新手続きには、留学後に在籍した全ての学校の成績証明書が必要です。また、現在在籍している学校から更新された入学許可証 (I-20) を持つて帰ることが必要です。日本のアメリカ大使館 (又は領事館) への申請にも保護者に準備してもらった預金残高証明書等が必要となりますので、必要書類等については JAAC 本部または JAAC カウンセラーに早めにご相談ください。

●JAAC 本部内保護者様専用ご連絡・ご相談窓口：

フリーダイヤル 0120-525-626 [tokai@jaac.co.jp](mailto:tokai@jaac.co.jp) 担当：高瀬

JAAC 日米学術センター 鈴木：[t.suzuki@jaac.co.jp](mailto:t.suzuki@jaac.co.jp) ©カリフォルニア担当：照井 [k-terui@mtg.biglobe.ne.jp](mailto:k-terui@mtg.biglobe.ne.jp)